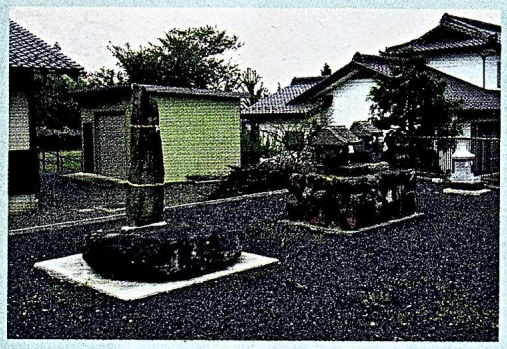
もっと知りたいふるさと㉗

八幡の「七頭（ながしら）」巡り

八幡では、昔から「七頭（ながしら）」について、いろいろと語り継がれています。しかし実際には、「七頭」そのものがどこにあり、どのようなものかは意外と知られていません。そこで、以前から一度行ってみたいと思っていた「七頭」を歩いてみることにしました。

まずは、志川の「柳清水」から探索を始めました。現在は、公民館に水神様として祀ってありますが、かつての湧水は、西沖地籍の真光寺跡にありました。池は埋められてありませんが、地籍の土手を降りていくと清水を見ることができます。水温は年中一二℃から一三℃を保っているそうです。



志川の「柳清水」水神様

次は、国道四〇三号線を「峰の頭無し」、別名「山の神」へ向かいます。碑があり、そこを道下に降りていくと、わずかの水量の湧水があり、辺りにはわさびが生えています。

三つ目の「郡（こおり）の頭無し」は、四〇三号線から遊歩道を右に入り、山道を行き少し広くなっている所にあります。ここにも湧水が出ています。以前来た時は、滝のように出ていた記憶があります。ドウドウとすごい音をたてて流れていました。ここは、標高六五〇㍍の場所にあります。ペットボトルに水を汲んで持ち帰り、沸かしてお茶にして飲んでみると、甘くておいしい味がしました。

また車に乗り「中原の頭無し」を目指し、奥へ登っていきます。そこから杉林の中を下って行くと、陽が当たらずジメジメし、杉っ葉が積もっていて足元がすべります。倒木をまたぎながら急な坂を降りていくと、水神様が見えてきます。ここは、どこを掘っても湧き水が出てきます。大きな岩のかたまりがあり、岩の下からパイプが引かれていました。この水は「姨捨正宗」のお酒造りに使われています。「おんべ」が飾られており、中原地区では七月にここまで登って来て、祭りを行っています。辺り一面は森閑としていて、神秘的な空間を感じました。

同じ道を戻り、国道に出て、五つ目の「小滝の頭無し」へ向かいます。展望台の手前の道下に降りていくと、白い可憐なフタリシズカの花が咲き、「小滝の頭無し」が見えてきます。下には中央道が走っています。ここへは下の道から登ってくることもできます。

六つ目の「嘉歴の頭無し」へ向かいます。眼下には大池地区が見渡せます。大池キャンプ場へ行くカーブの道下へ降りてみると、湧水は見当たりません。しかし、堰堤跡があり、以前は水道水として、大池・姨捨・代・峰・上町・辻で使われていました。松代地震の際、水位が下がり、井戸を掘り自噴して七〇㍍まで水位を上げています。現在は、佐藤さん宅の庭に水が流れ出ているということです。

いよいよ最後の七つ目の頭無し「弁天清水」のある大池へと向かいます。ここへは、池の南側の山道を登ります。子どもたちの遊び場もあり、小径を行くとミズの白お花が咲き、せせらぎが流れています。しばらく歩くと上の方に水神様が二か所見えてきます。ここは、しっかりとフェンスで囲まれていて、湧水は日量二八〇〇㌧と多量に出ています。

七つの泉の水質は全てPH7となっています。「七頭の湧き水」をすべて口にしてみましたが、「弁天清水」の水は、他の六か所より柔らかく感じました。何百年と枯れることなく聖山系のどこからか湧き出してくる泉。これらの湧き水は、八幡地区の水道水の源として、また、田畑を潤し、おいしいお米が作られる元となっています。

「七頭」巡りを通して、自然の雄大さに感謝し、この「七頭」を大切に保存していきたいと感じました。

大池の「弁天清水」水神様

八幡上町　宮坂直子